

平成 20 年 9 月 1 日

京都大学野生動物研究センター
センター長 伊谷 原一 殿

日本霊長類学会
会長 山極寿一

要望書

日本霊長類学会は、1985 年に霊長類を対象とした学術研究の進展と研究者間の交流を図るために設立され、これまでに多くの成果を挙げるとともに、世界の霊長類学の牽引車の役割を果たしてきました。学会の準機関紙である *Primates* は世界で最初の霊長類学の学術誌として、霊長類学の最新の成果を世界に発信しております。その先端的な研究の多くは京都大学を中心とした日本の霊長類学者による学際的な共同研究の賜物であり、とくに近年の研究は分野の枠を超えた共同研究として実施されています。海外の研究者との交流も盛んで、日本や国外のフィールド、研究施設でさまざまな新しいプロジェクトが進行中です。

今年 4 月に京都大学に新設された野生動物研究センターは、京都大学の特色であるフィールドワークに根ざした知の学統を受け継ぎ、野生動物の研究と教育を通じて、京都大学の理念である「地球社会の調和ある共存に貢献すること」を目的としています。当研究センターが今後、地球社会の緊急課題である野生動物の保全研究において重要な役割を果たすことは疑いなく、とくに当研究センターが管轄する幸島や屋久島の野外観察施設と民間のチンパンジー・サンクチュアリ宇土や林原類人猿研究センターといった国内研究拠点、アフリカや東南アジアにある数多くの海外研究拠点は、霊長類学にとっても計り知れない成果を生み出すに違いありません。また、同研究センターが進めている動物園・水族館との連携や、マクロ・ミクロを統合した多角的なアプローチはこれまでにない新しい視点と手法をもった研究拠点の形成に寄与することが期待されます。

日本霊長類学会は、当研究センターが共同利用・共同研究拠点として、国内外の研究機関や研究者、さらには動物園・水族館との連携を強化・活用することで、新たな学際的学問領域を創出されることを期待し、ここにその実現を強く要望いたします。